

旭川赤十字病院に通院中（または過去に通院・入院されたことのある）の患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号、令和5年3月27日一部改正）」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名]

急性胆嚢炎に対する胆嚢ドレナージが待機的胆嚢摘出術に与える影響

[研究代表機関名・所属] 真名瀬 博人（旭川赤十字病院・病院長）

[研究代表者名・所属] 栞原 尚太（旭川赤十字病院 外科副部長）

[研究の目的]

急性胆嚢炎の治療選択肢は緊急手術、抗生物質の投与、胆嚢ドレナージと様々な方法があります。さらに胆嚢ドレナージの方法には経皮経肝胆嚢ドレナージ（PTGBD）と、内視鏡的経乳頭的胆嚢ドレナージ（ETGBD）の2種類に大別されます。いずれの方法においても利点と欠点があり個々の症例や施設基準に基づいて適切な方法を選択しているのが現状です。

本研究では当施設においてこれまで施行されてきた急性胆嚢炎に対する胆嚢ドレナージの症例を振り返り、その後の待機的な胆嚢摘出術に与えた影響について検討します。また検討結果をもとにして、当院における急性胆嚢炎に対する最適な治療戦略を構築することを目的としています。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2021年1月1日から2025年12月31日の期間に当科にて胆嚢摘出術を施行した方を対象としています。

○利用するカルテ情報

カルテ情報：診断名、年齢、性別、身長、体重、併存症、抗血栓薬の内服の有無、病歴、検査結果（血液検査、CT・MRI画像検査）、手術関連情報（術式、手術時間、出血量、腹腔ドレーンの留置の有無）、術後情報（在院日数、合併症の有無）

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、ご住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道旭川市曙1条1丁目1-1

旭川赤十字病院外科 担当医師 栞原 尚太

電話 0166-22-8111 FAX 0166-24-4648